

2024年／第38回「外国人住民基本法」の制定を求める全国キリスト者集会宣言

私たち「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」（外キ協）は、2024年1月25日～26日に第38回全国協議会を日本バプテスト広島キリスト教会において開催しました。「21世紀移民社会の宣教課題～第三期外キ協を構想する」との主題のもと、各地外キ連および外キ協加盟各教派・団体、韓国基督教教会協議会の代表者ら42名が参加し、「外国人住民基本法」「人種差別撤廃基本法」「難民保護法」の実現に向けて、歴史を直視し、日本で働く移住者や難民、在日コリアンの現状に聞き、その支援と、現状を変革し和解と平和を目指す日・韓・在日教会、市民社会の共同課題を確認しました。

協議会では、「技能実習」制度から「育成就労」制度への移行が、不当な実態を温存したまま検討されている問題点が指摘されました。「ソーシャルブックカフェ・ハチドリ舎」は、社会課題をめぐって対等な立場で対話する場を形づくってきました。一般社団法人「ええじゃん」は、格差と分断が広がる社会にあって、広島県内のさまざまな立場の外国人と出会い、隣人として相談、学習・就労支援等に携わってきました。「アトゥットゥミャンマー」は、クーデターに対するミャンマー人の抵抗運動への連帯から学び、祈りを合わせることを中心として、小規模の支援に徹しながら、募金活動による本国支援、日本での在留資格取得等の活動に携わってきました。また聖書を通して、神が寄留者を選び取り、歓待と友愛を呼び覚ます「祝福」を使命として託されたこと、イエスご自身が寄留者として居場所を持たない者の居場所を作るために生きられたこと、そして、人間の権威主義支配に抗して、歓待と友愛の天幕を共に広げる教会としてイエスに従っていくことを示されました。

紛争や民衆弾圧によって難民・避難民が多く生み出されている現状にもかかわらず、日本では国際人権基準に反して、難民申請中であっても強制送還を可能とする入管難民法の改悪がなされました。これに対して外キ協は「入管難民法の改悪に抗議し、難民・移民と共に生きる共同声明」を出すと共に、「難民・移民なかまのいのちの緊急基金」を起ち上げ、難民・移民をめぐる厳しい現状に当事者たちと共に立ちむかい、「あなたのことを決して忘れない」とのメッセージを発し、マイノリティに苦難を強いるマジョリティ社会を変革していくことを志しました。

在日コリアンをはじめ諸外国人住民の指紋押捺拒否の闘いへの連帯の中から、すでにそれぞれの「草の根」で運動を展開していた各地「外キ連」が結集して、1987年外キ協は全国的ネットワークとして結成されました。日・韓・在日教会の共同課題として外登法問題に取り組み、指紋押捺拒否者の逮捕、再入国不許可、在留更新不許可といった弾圧を闘い抜いて、指紋制度の全廃を勝ち取りました。

この成果を土台に、外キ協は「外国人住民基本法（案）」を作成し、日本が国際人権規範に則り外国人の人権を保障する「多民族・多文化共生社会」の実現を目指す第二段階の取り組みを開始しました。

21世紀に入り、「テロ対策」を口実としたマイノリティへの敵視・排斥、またヘイトスピーチ・ヘイトクライムが昂進する中、外キ協は、戦後補償問題をはじめ、日韓の市民社会が直面する諸問題を共有し、日本社会から排斥されて人間としての尊厳までも奪われている外国人住民の人権獲得の闘いへと導かれていきました。

これらの到達点を確認して、外キ協は、オンラインを含めた情報発信や交流の機会を積極的に持ち、地域・世代・国籍を超えた様々なネットワークを形成しつつ、第三期の新たな展開を構想し、次世代に手渡していく務めを負っていきます。

私たちは今日、日本バプテスト広島キリスト教会を会場に「第38回『外国人住民基本法』の制定を求める全国キリスト者集会」を開催し、現状の課題を確認し、神ご自身が寄留者となって分かち合われる祝福を示されました。その祝福に向かって進む解放のネットワークを広げつつ、新たな福音宣教の歩みを踏み出すことを私たちは決意します。

2024年1月26日

第38回全国キリスト者集会 参加者一同
外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会